

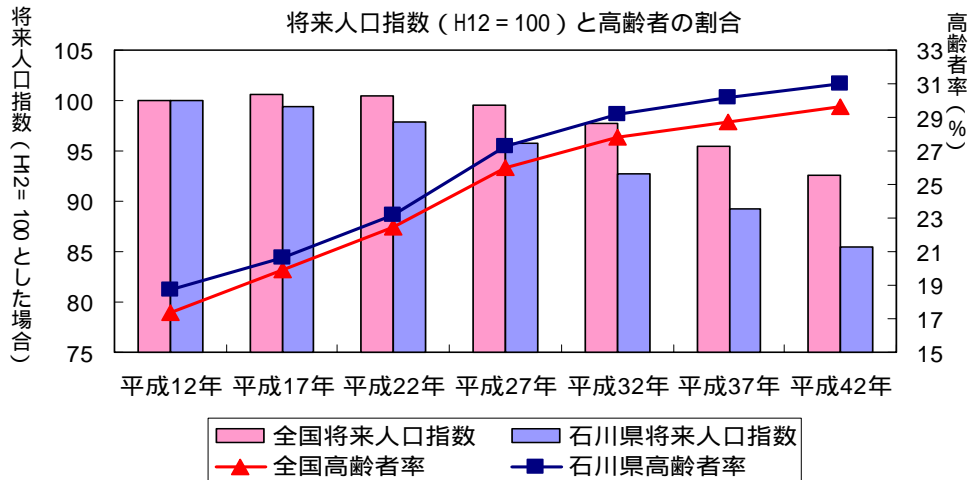
指標 8

主要駅周辺のバリアフリー化率

現状と課題

進展する高齢化

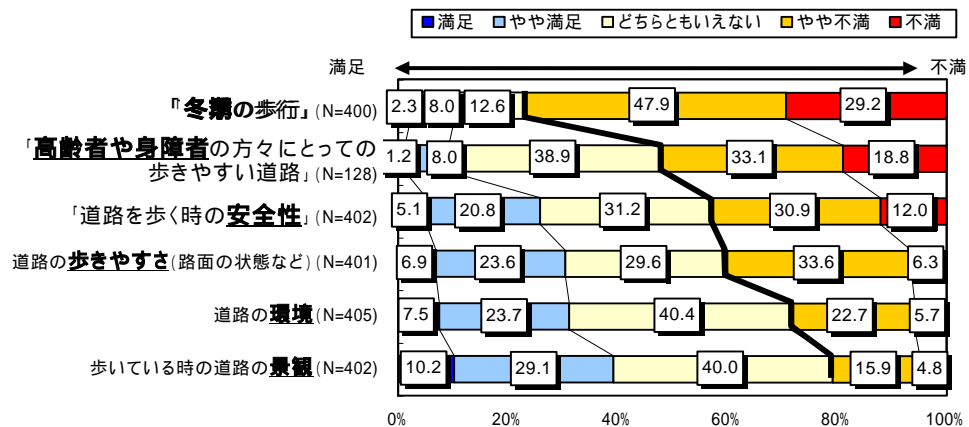
石川県の人口は、平成 15 年 7 月現在約 117.6 万人であるが、平成 10 年代後半以降、減少する見通し。全国値に比べ、石川県は人口減少の割合も高齢者の割合も高い。



資料；国立社会保障・人口問題研究所

冬期やバリアフリーに関する強い不満

道路の満足度の調査においては、冬期やバリアフリーに対する高い不満が示されている。



国土交通省北陸地方整備局 道路の満足度 (CS) 調査 (H14)

求められるバリアフリー社会の構築

幅が狭く、勾配が急な歩道が多くみられ、バリアフリー社会に対応した道路整備が求められている。



(一)小原土清水線 金沢市寺町地内

取組みの方向性

高齢者・身体障害者等が自立した日常生活、社会生活を営むことができる社会を目指し、「石川県バリアフリー社会の推進に関する条例」に基づき、県全域において、道路の整備に合わせ、バリアフリー化を推進します。

特に、不特定多数の利用者が訪れる主要駅周辺の特定経路においては、交通バリアフリー法に基づき、既存施設の改善も含め、バリアフリー化を進めます。

J R 金沢駅周辺における特定経路



金沢駅東口

取組みの成果指標

主要駅周辺の特定経路におけるバリアフリー化率を指標として設定しました。

$$\text{主要駅周辺のバリアフリー化率} = \frac{\text{バリアフリー化した特定経路延長}}{\text{全特定経路延長}}$$

対象路線：国道、県道、市町道のうち、特定経路に指定されている道路の延長約 4.3 km

特定経路とは、高齢者・身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律（通称「交通バリアフリー法」）に基づき、整備が必要な経路

主要駅とは、交通バリアフリー法の対象となる、一日の利用客数 5,000 人以上の主要駅であり、県内では 5 駅が対象となります。

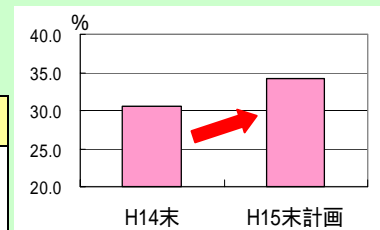
（JR 金沢駅、JR 西金沢駅、JR 松任駅、JR 小松駅、JR 加賀温泉駅）

バリアフリー化とは、交通バリアフリー法に基づく道路の構造基準を満たすもので、具体的には、歩道幅員が 2 m 以上、勾配が 5 % 以下、歩道と車道との段差が 2 cm の整備を基本とし、さらに視覚障害者の利用が多い区間については、視覚障害者用誘導ブロックの整備がなされたもの。

主要駅周辺のバリアフリー化に向けた平成 15 年度の成果目標

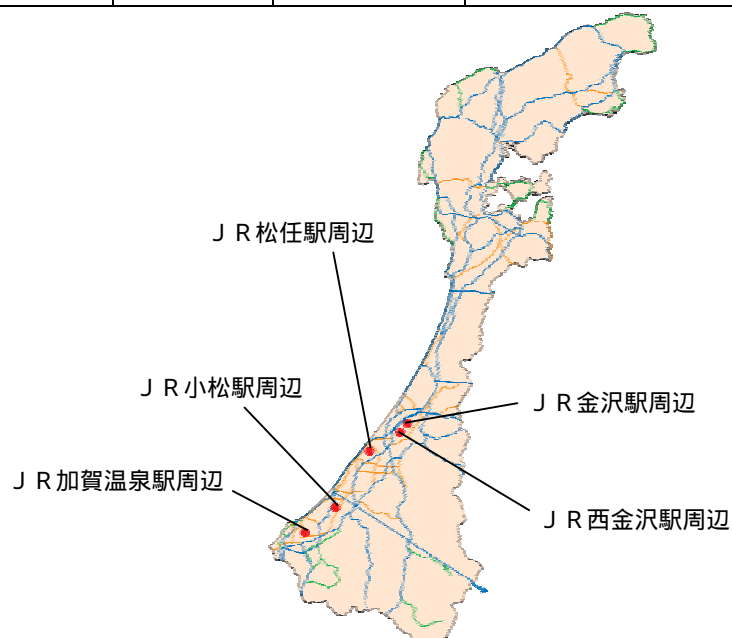
主要駅周辺のバリアフリー化率を、H14 末 30.6%から H15 末 34.1%へ、約 4 %の増加を目指します。

項目	H14 末	H15 末計画	増
主要駅周辺のバリアフリー化率 (整備延長)	30.6% (13.3km)	34.1% (14.8km)	3.5% (1.5km)



H 1 5 年度に供用を予定している主な箇所

駅名	延長	H14 末	H15 末計画	主な路線名	主な整備内容
					幅員確保 段差解消 勾配の改善 誘導ブロック
JR 金沢駅	0.7km	約 23%	約 27%	(市)武蔵・森山線	
JR 西金沢駅	0.2km	約 21%	約 25%	(一)野々市西金沢停車場線	
JR 小松駅	0.2km	約 54%	約 56%	(主)金沢美川小松線	
JR 松任駅	0.4km	約 29%	約 32%	(市)松南線	
JR 加賀温泉駅	-	100%	100%	-	



平成 20 年代中頃までに、主要駅周辺のバリアフリー化率を約 60%とすることを目標としています。